



チネチ誘いで上めのタナを探りアタリを拾っていく。ほぼ投入ごとにアタリは出るもののタナが決まきれず、かつスローなネチネチ誘いなのでアタリを出すのにもなかなか時間がかかる。アタリが出てからも素直に食い込むことはほとんどなく、アタリが出てからずっとエサをくわえたままで、7〜8メートルも誘い続けてからやっとハリ掛かりなんてヤツが多かった。

それでも掛けアタリに移行すればいいほうで、モタレアタリの後ずりつとモタレたままなんてヤツもいて、そろそろどうよ！で合わせることもスルってことが多かった。

そんなときにはすぐ巻かずにその場で竿をたたくようにシエイクを4〜5秒、ピタッと止めて一呼吸待って空合わせ、がこの日は決まって何本

Tackle Guide

船長おすすめの仕掛けはハリス10号以上と大め。「太くても食いは変わらないよ」このことだが、この日は中小型が多かったので私はハリス6号で釣った。ハリス10号以上というのはタチウオに切られるのを少なくするのが目的だろうから、次回訪問時は東京湾奥で密かに？ 流行っている先端10センチほどだけ12号の逆テーパ仕掛けでやろうと思っている。



▲再びの上昇に期待

船長に聞くと、「そうですね。あまり上のほうだと小さいのが多くなりますね。ただ下のタナをやったからって大きいのはばかりとは限らないですけど」との答え。では一応と、45メートル付近から誘ってみるが私の誘い方がマッチしないのか明らかにアタリの数が減る。それでもしつこく下めのタナで粘ってようやく掛けたが、これも指幅3本に届かないようなサイズ。もうこうなれば型は諦めて、今日は上のタナで釣ろうと決める。

しかし相変わらずアタリはほぼ毎回のように出るのだが、なかなか食い込まなかったり食い込むのに時間がかかったりだ。

誘いのパターンも持っている引き出しを全開にし、誘いのスピードや幅を変えたり、ノーテンションフリーフーから竿が曲がった。まずは当日の紅一点、右舷胴の間で頑張っていた石川さんがうれしい初物。続いてアドバースを送っていた森村さんにもきて、そのすぐ後には右トモの植野さんと続く3連チャンだ。

型はすべて指幅2.5〜3本級とやや小型ではあるが、それまでアタリもほとんどなかっただけにうれしやビックリである。

スタートダッシュの後、間を置いてポツポツの展開となったところで私も竿を出す。アンカーを打ってからの指示ダナは「30〜50メートル。40メートル前後を中心に」で、アナウンスどおり皆さん40メートル前後で掛けているようだったので、45メートルから誘い始めますはひとシヤクリでリール1/4回転、スピードはゆっくりめで誘ってみる。

そのまま誘い続けていると25メートル付近でククッと連続したアタリに変わったので聞き合わせるとグリーン！と竿に乗り、まずは指幅3本級が釣れた。この後もこのネ

船宿information

駿河湾沼津江浦港

伊勝丸

☎090-8474-6990 (詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=夜タチウオ乗合一人1万1000円 (エサ、氷付き)

▶備考=予約乗合、16時集合

伊海 幹雄船長

た。ベイトが増えてくればまたタチウオも固まり出して大釣りできるよになると思えますよ」と伊海幹雄船長。

今後も伊勝丸では夜タチをメインに出船の予定とのこと。ベイトの回遊、そしてタチウオの爆釣復活に大いに期待したい。



▲タナを探るのもタチウオ釣りの面白さ



▲沼津の夜タチウオはまだ狙い目

大型はどのタナに？

そんな状況なのでアタリの数の割に釣果はのびないが、アタリを出すまで、そしてアタリが出てから掛けるまでと非常にテクニカルで、これはこれで面白い展開だった。ただ、ほかの方は指幅4本級を交えているのに自分は小型ばかり。もしかして上のタナだと小さいのばかり？と

か拾うことができた。

駿河湾沼津の夜タチウオが絶好調。小型交じりとはいえず、出船すれば連日トップ50本近くと聞いてはいても立ってもいられず、沼津江浦港の伊勝丸へと釣行した。

ネチネチ誘いが効いた

伊勝丸の集合時間は16時だが、全員が15時半には集合し、準備が整った16時過ぎに出船となった。

この日の釣り人は私を入れて6名。右舷に森村さんグループ3名が並び、左舷には午前アジ船からの連チャンで2名の常連さんがトモから並び、私は左舷ミヨシの陣容だ。

港を出た船は右手北西方向に舵を切る。途中静浦沖にも職漁船と見られる船もいたが通過、今日は千本浜沖かと思ったがここも通過して、原沖

まで足を伸ばした。なんでも9月、10月ごろは近場でも模様があったらしいのだが、「最近では原沖の釣果がいいの」とのことだ。

たそがれ時で辺りはまだ明るさが残っている中、「準備ができたらやってみて18時まではアンカー打てないから流し釣りでやりますよ。水深は65メートルくらい。底から10メートルくらいまで誘ってみて」で釣り開始となる。いい日にはこの時間帯からアタリと聞くのだが、この日はアタリが遠い。結局18時までの1時間は顔を見ず、右舷トモの森村さんに「掛けたけど途中でバレちゃいました」があっただけだった。

「こりゃあ今日は苦戦するかな？」の思いがよぎるが、アンカーを打ってすぐの1投目

冬でも熱いテクニカルゲーム

沼津の夜をタチウオで遊ぶ

から竿が曲がった。まずは当日の紅一点、右舷胴の間で頑張っていた石川さんがうれしい初物。続いてアドバースを送っていた森村さんにもきて、そのすぐ後には右トモの植野さんと続く3連チャンだ。

型はすべて指幅2.5〜3本級とやや小型ではあるが、それまでアタリもほとんどなかっただけにうれしやビックリである。

スタートダッシュの後、間を置いてポツポツの展開となったところで私も竿を出す。アンカーを打ってからの指示ダナは「30〜50メートル。40メートル前後を中心に」で、アナウンスどおり皆さん40メートル前後で掛けているようだったので、45メートルから誘い始めますはひとシヤクリでリール1/4回転、スピードはゆっくりめで誘ってみる。

そのまま誘い続けていると25メートル付近でククッと連続したアタリに変わったので聞き合わせるとグリーン！と竿に乗り、まずは指幅3本級が釣れた。この後もこのネ

知得! Tips and Tricks

意外に暖かい夜釣り

この時期の夜釣りや聞くと「うへ〜」となる方もいるかもしれないが、沼津の夜釣りは思うほど寒くはない。沼津自体が温暖な地だし、たいてい一日の最低気温がマークされるのは明け方の日の出前ころ。夕方に出船する夜タチでは沖場がりの22時前後でもそれほど寒くはなく、東京湾や相模湾の早朝の港よりもずっと暖かいことが多い。これでタチウオが入れ食いにもなった日は……とはいえ、もちろん寒い日もあるので防寒準備は忘れなく。

▲極寒ではないとはいえ防寒対策は抜かりなく



▲駿河湾ではサンマエサが主流